

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：15301

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H05733

研究課題名（和文）心・身体・社会をつなぐアート/技術

研究課題名（英文）How art and technology connect mind, body, and society

研究代表者

松本 直子（Matsumoto, Naoko）

岡山大学・文明動態学研究所・教授

研究者番号：30314660

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 109,900,000円

研究成果の概要（和文）：日本列島、メソアメリカ、アンデス、オセアニア地域という相互に独立して展開した文明形成のプロセスについて、技術/アートが果たした役割という視点から多角的な研究を実施し、多くの重要な学術的知見を得ることができた。文明創出に関わるヒトの認知的特性や、固有の環境や歴史的コンテキストにおいて多様性が発現する様相についても理解を深めた。身体を介したモノと心の相互浸潤というモデルを共有することで、視覚に加えて聴覚や触覚、身体感覚という視点からもモノとヒトの相互関係について分析し、時間や空間に関する認知や世界観・人間観が変容するメカニズムに迫ることができることを示し、方法的にも、新しい研究の可能性を広げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文明創出メカニズムの根幹にあるヒトがモノを作り、モノがヒトを作るという関係について、またアート/技術の変化と自然環境との密接な関係とそこから生じる象徴的意味について、考古学的データに基づく研究を推進することができた。その基本的な関係性は普遍的でありながら、具体的な人間観・世界観の内容はこの数万年間で大きく変化した可能性を示すことができたことは、人類史の新しい解釈を可能にする点で、大きな学術的意義を持つ。また、人間観を根本的に問い直す視座を得たことは、重要な社会的意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：We conducted multifaceted research from the perspective of the role played by technology/art in the emergent processes of civilization in the Japanese archipelago, Mesoamerica, the Andes, and Oceania, which developed independently of each other, and obtained many significant academic findings. We also deepened our understanding of the cognitive characteristics of humans involved in the creation of civilizations and how diversity manifests itself in unique environments and historical contexts. Methodologically, by sharing the model of mutual permeation of objects and minds through the body, we were able to analyze the interrelationship between objects and humans from the viewpoints of auditory, tactile, and bodily senses in addition to visual cognition, and to approach the mechanisms that transform our cognition of time and space and our worldview and the view of a human being. These results have broadened the possibilities for new trans-disciplinary research.

研究分野：考古学

キーワード：認知考古学 物質文化 土器 土偶 製作技術 三次元モデル 身体技法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまで概念的に切り分けられてきた心と物質がどのような相互作用によって文化を生み出すのかを考えるには、人間の身体と行為に焦点を当て、生物学的決定論にも極端な文化相対主義にも陥らず、生物としてのヒトと、人間が生み出す文化的多様性を一体として捉える研究視点、現代科学の基盤となってきた心身二元論、物心二元論的な枠組みを超えて、モノと心と身体が緊密に絡み合った一つのシステムとしてその変化を考察する研究視点が必要である。物質文化が人間にどのような力を及ぼすかを検討するには、身体的機能を拡張する技術的側面と、象徴やメタファーを喚起し感性に訴えて心を操作する芸術的側面とを、「アート」として統合的に分析する必要がある。

ヒトの認知が脳内に限定されるものではなく、身体を介して物質的世界と不可分な関係にあるという視点は、哲学や心理学、人類学で以前から注目されており、「拡張された心」、「分散認知」などの概念による研究が1990年代から進められている。グレゴリー・ベイトソンが例として挙げている「杖を持つ盲人の自己はどこまでか」という古典的な問い掛けは、私たちの身体とモノが一体となって運動や知覚が生じており、身体とモノの間に境界を引くことの難しさを分かり易く示している。近年、考古学でも、物質文化を単に心の一部が反映されているかもしれない生産物としてではなく、認知的プロセスを構成するものとして分析する必要があることが指摘されはじめているが、実際の考古資料に基づく体系的かつ分野統合的な研究は進んでいなかった。

2. 研究の目的

ヒトが生み出す物質文化には、身体機能の拡張を果たす技術と、感性や価値観にうたえてヒトの心を動かす芸術という二つの側面がある。本計画研究では、「アート」として包括されるその両面が身体を介して統合される様相に焦点を当て、日本列島、メソアメリカ、アンデス、オセアニアにおけるアートの生成と変容の特性を比較検討する。アート(技術・芸術)によるヒトの人工化/環境のヒト化という現象を、考古学的・人類学的・心理学的に分析することにより、社会固有のリアリティ(行動の基準となる主観的事実)が形成される歴史のプロセスを解明し、新たな人間観・文化観を提示することを目的とする。

3. 研究の方法

身体を介した物質と心の相互浸潤モデルを研究戦略の基盤に据え、文明形成期に見られる大規模な物質的環境構築の比較分析を行う本領域において、本研究はヒトが生み出す物質文化自体が持つ諸特徴を、B01班の民族誌調査、B02班の認知科学・脳神経科学的研究等との密接な連携のもと、実験的手法も用いて分析することによって、身体を介したヒトとモノの相互作用の実態を具体的に明らかにするという役割を負う。

出ユーラシア後に、日本列島、中米、南米、オセアニアの各地域において、アート(技術/芸術)がどのようにして発生・展開するのかを、具体的な事例に基づいて分析することにより、身体機能の拡張としての技術発達と、造形・デザイン・色彩といった感性に関わる人工物製作との関係を明らかにする(図1)。

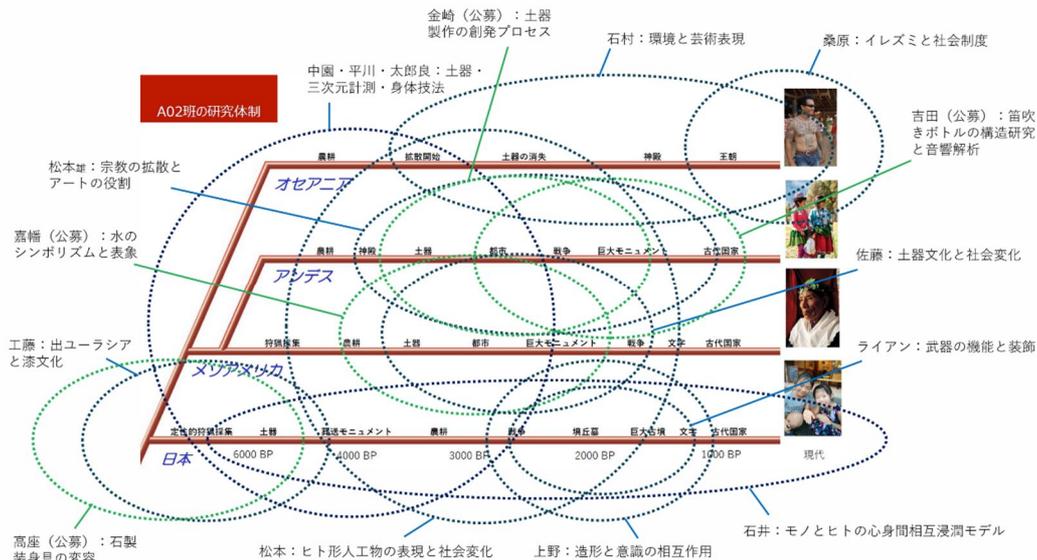
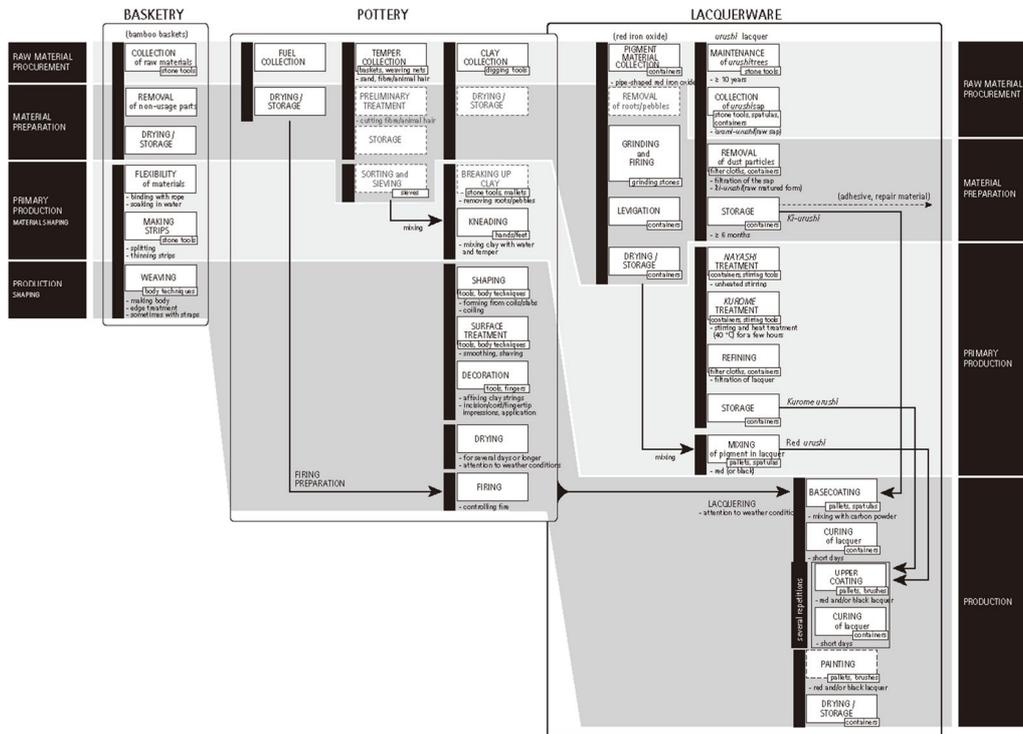


図1 AO2班(アート班)の研究体制



Comparison of the production processes (simplified) of baskets, pottery, and lacquerware (from the Incipient to Early Jōmon). Boxes indicate the different stages of the process. Dashed boxes indicate processes that are not mandatory stages. The small tags attached to the boxes indicate the tools used at that stage. The process becomes more complex for basketry, pottery, and lacquerware in that order. Basketry is a coherent sequence of processes, whereas pottery and lacquerware require the maker to be constantly aware of several parallel sequences.

図2 籠、土器、漆器の製作工程の比較と意識の振り向けの複雑化 (Matsumoto et al. 2023)

4. 研究成果

5年間の共同研究の中で、日本列島、メソアメリカ、アンデス、オセアニア地域という相互に独立して展開した文明形成のプロセスについて、技術/アートが果たした役割という視点から多角的な研究を実施することができ、多くの重要な学術的知見を得ることができた。通常密接な学術的交流をすることのない、遠く離れたフィールドでの知見を共有することによって、文明創出に関わるヒトの認知的特性や、固有の環境や歴史的コンテキストにおいて多様性が発現する様相についても理解を深めることができた。

日本列島については、後期旧石器時代から縄文時代にかけて、土器・土偶の登場、漆工芸の発達など文明創出に至る端緒となる様相についてかなり明らかにすることができ、長期的な変化のプロセスを把握することが可能となった。特に、土器の発明がもつ認知的意義について、具体的な資料に基づいて明らかにできたことや、それを人類史における技術革新のプロセスの中に位置づけ直すことができたことは非常に重要な成果であった(図2)。また、弥生時代から古墳時代にかけては、象徴的価値をもつ様々な遺物の詳細な分析から、社会の複雑化や時間認識の変化との関係などについて考察を深めることができた。

モニュメント/アートをアンデス文明の形成過程に位置づける研究により、アンデス中央高地南部において神殿の出現と周囲の景観の関係性が多様であることが明らかになった。メソアメリカにおいては、テオティワカン遺跡出土土器の胎土分析を実施し、大多数の在産土器の中に搬入土器が混じる様相が明らかになった。オセアニアについては、ニュージーランド・チャタム諸島でのフィールドワーク等を通して、自然環境とアートの創出の関係について新知見を得ることができた。また、身体に彫るイレズミと木や竹に彫られる彫刻との関係や神像などのモチーフに関する多角的分析により、物質・身体・心の中の複雑な相互関係についても新たな知見が得られた。

また、「ヒト形人工物の顔・身体表現分析ユニット」として、A03班、B02班と共同で、土偶・埴輪の顔・身体表現に関する実験的研究を進めたほか、銅鐸の音響に関する実験的研究等も行った。

方法論については、身体を介したモノと心の相互浸潤というモデルを共有することで、視覚に加えて聴覚や触覚、身体感覚という視点からもモノとヒトの相互関係について分析し、時間や空間に関する認知や世界観・人間観が変容するメカニズムに迫ることができ、ということを示すことができた。これにより、新しい研究の可能性を広げることができたといえよう。さらに、蛍光X線分析、X線CTなどを用いた物質文化の非視覚的情報を組み合わせることによって、人工物の

生産と流通を含むモノとヒトとが織りなす関係性に重層的に切り込むことができた。三次元データを用いた新たな物質文化研究も多くのメンバーが推進し、新しい研究手法開発の基盤を固めることができた。

本計画研究の成果は多岐にわたるが、まとまったものとして、『心とアートの人類史』(松本編 2022)を刊行したことが特筆できる(図3)。

以上のように、文明創出メカニズムの根幹にある「ヒトがモノを作り、モノがヒトを作る」という関係について、またアート/技術の変化と自然環境との密接な関係とそこから生じる象徴的意味について、考古学的データに基づく研究を推進することができた。その基本的な関係性は普遍的でありながら、具体的な人間観・世界観の内容はこの数万年間で大きく変化した可能性を示すことができたことは、人類史の新しい解釈を可能にするなど領域研究に大きく貢献することができた。

文献

松本直子編 (2022) 『心とアートの人類史』季刊考古学・別冊 36, 雄山閣。

Matsumoto, N., Hirakawa, H., and Nakazono, S. (2023) From “Made of” to “Made from”: Cognitive Significance of the Production of Pottery and Lacquer in Japan, In Wynn, T., Overmann, K. A., Coolidge, F. L. (Eds.) *Oxford Handbook of Cognitive Archaeology*, pp.889–914. Oxford University Press.



図3 研究成果の一部(松本編 2022)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計58件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 石井匠	4. 巻 36
2. 論文標題 相互浸潤する物・超自然・人：芸術考古学の理論的視座	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石村智	4. 巻 36
2. 論文標題 人類のオセアニア拡散にともなう芸術表現の変化について：アオテアロア(ニュージーランド)を例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野祥史	4. 巻 36
2. 論文標題 社会の変化と動物表象・造形の変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤雄一郎	4. 巻 36
2. 論文標題 縄文時代早期末～前期の漆文化とその特徴	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原牧子	4. 巻 36
2. 論文標題 形の欠如から3次元へ ソサエティ諸島のイレズミにみられるティキの形状と信仰の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤悦夫	4. 巻 36
2. 論文標題 形成期のメキシコ盆地における土器の器種と文様の変化について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 106-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中園聡, 平川ひろみ, 太郎良真妃	4. 巻 36
2. 論文標題 土器とホモ・サピエンスの心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中園聡	4. 巻 155
2. 論文標題 高解像度で多角的に土器を見る	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川ひろみ	4. 巻 23
2. 論文標題 3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究 概要	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本情報考古学会講演論文集	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本直子	4. 巻 36
2. 論文標題 心・身体・社会をつなぐアート/技術	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto, N.	4. 巻 63
2. 論文標題 Toward an integrative human historical science of the mind, body and material.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychologia	6. 最初と最後の頁 216-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psychosoc.2021-B021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawabata, H., Shiba, R., Matsumoto, N., Matsugi, T. and Janik, L.	4. 巻 63
2. 論文標題 How modern humans see ancient figure faces: The differential impressions and perceived expressions from clay figure faces from prehistoric and protohistoric Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychologia	6. 最初と最後の頁 116-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psychosoc.2021-B019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ライアン・ジョセフ	4. 巻 36
2. 論文標題 剣状刀子と剣先刀子の意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 85-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mendoza Martinez Edison, Nesbitt Jason, Matsumoto Yuichi, Cavero Palomino Yuri, Glascock Michael D.	4. 巻 49-2
2. 論文標題 pXRF Sourcing of Obsidian from Pallaucha, Vilcashuaman: Insights into Exchange Patterns in South-Central Peru during the Early Horizon	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin de l' Institut francais d' etudes andines	6. 最初と最後の頁 255 ~ 276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/bifea.12232	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumoto Yuichi, Nesbitt Jason	4. 巻 4
2. 論文標題 ?Cupisnique en la Sierra Central? Piezas de "Cupisnique" en Piquimina y Campanayuc Rumi	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 YACHAQ	6. 最初と最後の頁 71-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.46363/yachaq.v4i2.168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumoto Yuichi, Olano Jorge, Sakai Masato	4. 巻 33
2. 論文標題 Tres Palos Revisited: Understanding the Middle Horizon in the Rio Grande de Nasca Drainage	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Latin American Antiquity	6. 最初と最後の頁 425 ~ 431
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/laq.2021.94	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松本雄一	4. 巻 9
2. 論文標題 アンデス文明形成期研究に見る在地性の問題 チャビン問題の学史的考察より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人類学研究所 研究論集	6. 最初と最後の頁 94-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 工藤雄一郎	4. 巻 225
2. 論文標題 縄文時代の漆文化とその起源に関する諸問題 学史的視点から今日的課題へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 11-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 工藤雄一郎・永嶋正春	4. 巻 225
2. 論文標題 縄文時代・続縄文時代の遺跡出土漆製品の14C年代測定	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 39-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中園聡・太郎良真妃・平川ひろみ	4. 巻 32
2. 論文標題 上黒岩岩陰の石偶	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊考古学別冊	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野祥史	4. 巻 -
2. 論文標題 文字資料と物質文化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 秦帝国の誕生 古代史研究のクロスロード	6. 最初と最後の頁 131 - 135.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本直子・入来篤史	4. 巻 Feb. 2021, 91-2
2. 論文標題 文明形成を捉えなおすために 従来の文明論の対象を超えた新たな概念・領域設定による研究展開の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 159-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto, N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Toward a comparative analysis of the facial and bodily representation of anthropomorphic artifacts	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Landscape, monuments, arts, and rituals out of Eurasia in bio-cultural perspectives. Proceedings of an international conference in Mexico, February 27-28, 2020	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桑原牧子	4. 巻 -
2. 論文標題 身体 イレズミからみるポリネシア社会の歴史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オセアニアで学ぶ人類学	6. 最初と最後の頁 183 - 194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本直子	4. 巻 728
2. 論文標題 認知考古学から読み解く縄文人の心性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中園聡, 平川ひろみ, 太郎良真妃, 若松花帆 / 春成秀 爾	4. 巻 23
2. 論文標題 特殊器台の観察視点とデジタル記録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本情報考古学会講演論文集	6. 最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Naoko, Hirakawa Hiromi, Nakazono Satoru	4. 巻 -
2. 論文標題 From "Made of" to "Made from": Cognitive Significance of the Production of Pottery and Lacquer in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Oxford Handbook of Cognitive Archaeology	6. 最初と最後の頁 889 ~ 914
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oxfordhb/9780192895950.013.35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本直子	4. 巻 -
2. 論文標題 美術の歴史とジェンダー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 何が歴史を動かしたのか 第3巻 古墳・モニュメントと歴史考古学	6. 最初と最後の頁 131-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tema, E., Hatakeyama, T., Ferrara, E., Davit, P., Polymeris, G.S., Mitsumoto, J., Matsumoto, N.	4. 巻 66
2. 論文標題 Insights on the firing temperature of ancient ceramic coffins through a multi-analytical approach: The case of the Sada Nishizuka Kofun, Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Cultural Heritage	6. 最初と最後の頁 265-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.culher.2023.11.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishii, T. and Matsumoto, N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Mutual permeation model of things, people, and the supernatural: Insights form Jomon pottery and dogu figurines.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of the Out of Eurasia Hawai'i Conference, March 02-03, 2023. Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations	6. 最初と最後の頁 108-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平川ひろみ	4. 巻 41
2. 論文標題 考古学からみた土器製作者のモーターハビット	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 基礎心理学研究	6. 最初と最後の頁 131-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14947/psychono.41.21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中園 聡, 平川ひろみ, 太郎良真妃, 春成秀爾, 中川 涉	4. 巻 17
2. 論文標題 神戸市念仏山古墳の埴輪とその評価	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 兵庫県立考古博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 13-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計114件（うち招待講演 20件/うち国際学会 20件）

1. 発表者名 平川ひろみ, 松本直子, 入来篤史, 中園聡
2. 発表標題 「三元ニッチ構築モデル」をめぐる認知考古学的挑戦
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第7回全体会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Matsumoto, N., Kawabata, H., Kamachi, M. and Janik, L.
2. 発表標題 An Integrative approach to the faces on figurines and pottery: Cognitive psychological experiment and archaeological analysis
3. 学会等名 World Archaeological Congress-9 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Matsumoto, N. and Matsugi, T.
2. 発表標題 Creating a material world, society, and mind: an archaeological examination of human niche construction.
3. 学会等名 Workshop: Human Sociality: Comparative Studies of Social Evolution and Historical Dynamics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本直子
2. 発表標題 統合的人類史学からみた人間行動の変化と遺伝
3. 学会等名 日本双生児研究学会第37回学術講演会教育講演 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ishii, T. and Matsumoto, N.
2. 発表標題 Mutual permeation model of things, people, and the supernatural: Insights form Jomon pottery and dogu figurines.
3. 学会等名 Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations, Out of Eurasia Hawai'i Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 工藤雄一郎
2. 発表標題 最終氷期末から後氷期への環境変化と縄文文化の成立: 取掛西貝塚の意義
3. 学会等名 取掛西貝塚を考える: 約1万年前の縄文ワールド第5弾
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 工藤雄一郎
2. 発表標題 縄文時代早期末～前期に北海道にウルシは存在したのか?
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平川ひろみ, 中園聡
2. 発表標題 ホモ・サピエンスと土器作り: 民族誌のフィールドから
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本直子
2. 発表標題 縄文・弥生社会の環境構築
3. 学会等名 日本学会議公開シンポジウム「最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本直子
2. 発表標題 文明と戦争 生と死のコントロール
3. 学会等名 第41回人文機構シンポジウム「戦争をめぐる生と死」(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 石村 智
2. 発表標題 チャタム諸島におけるポリネシア人の適応の特質
3. 学会等名 日本オセアニア学会第41回研究大会・総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 嶋田 誠, 石村 智
2. 発表標題 ヒトのニッチ構築と環境の相互作用: 人口論モデルの実証的研究を目指して
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第10回全体会議
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 桑原牧子
2. 発表標題 マルケサス諸島の彫刻とイレズミの文様生成における相関性
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第10回全体会議
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松本雄一, 大谷博則, ユリ・イゴール・カペロ・パロミノ
2. 発表標題 アンデス中央高地における公共祭祀建築の出現
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第10回全体会議
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松本雄一
2. 発表標題 チャビン現象を問い直す：ペルー中央高地からの視座
3. 学会等名 古代アメリカ学会第28回研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Cavero Palomino, Y., and Matsumoto, Y.
2. 発表標題 Quinta temporada de excavaciones en el centro ceremonial de Campayuy Rumi Vilcashuaman, Ayacucho: Arquitectura, ritual y paisaje
3. 学会等名 X CONGRESO NACIONAL DE ARQUEOLOGIA (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Dante, D., Segami, S., Takahashi, H., Matsumoto, Y., and Yamamoto, A.
2. 発表標題 Los caminos y su valor como Patrimonio Cultural: Un estudio comparativo de los caminos prehispanicos en el distrito de La Molina (Lima, Peru) y los caminos historicos del pueblo de lide (Yamagata, Japon)
3. 学会等名 XXXV CONGRESO CANELA (a Confederacion Academica Nipona, Espanola y Latinoamericana) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤悦夫, 中園 聡, 平川ひろみ, 太郎良真妃, 高田祐磨
2. 発表標題 メキシコ、テオティワカン遺跡「月のピラミッド」出土土器の蛍光X線 (pXRF) 分析
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第10回全体会議
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 上野祥史
2. 発表標題 造形から復元した行為・認識と社会変革の評価
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第10回全体会議
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 平川ひろみ, 中園聡
2. 発表標題 ホモ・サピエンスと土器作り: 民族誌のフィールドから
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中園 聡, 平川ひろみ, 太郎良真妃
2. 発表標題 埴輪の蛍光X線分析: 兵庫県五色塚古墳とその周辺の古墳・墓地
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平川ひろみ
2. 発表標題 土器の3D形状計測による製作者の個人内・個人間比較
3. 学会等名 日本情報考古学会第47回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平川ひろみ
2. 発表標題 考古学からみた土器製作者のモーターハビット
3. 学会等名 基礎心理学フォーラム2022年度第1回フォーラム 基礎心理学と人類史研究との接点(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hirakawa, H., Nakazono, S., and Tarora, M.
2. 発表標題 Pottery, body, technology, and cognition
3. 学会等名 World Archaeological Congress-9 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上野祥史
2. 発表標題 時間の認識から評価した社会の複雑化
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤悦夫, 真世土マウ
2. 発表標題 メソアメリカの古代土器技術の復元: スリップの復元
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本雄一
2. 発表標題 ペルー中央高地、カンパナユック・ルミ遺跡における三次元測量: 高精度測量データとその活用に向けての予備的考察
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松本雄一
2. 発表標題 景観の神殿化: アンデス形成期の事例から
3. 学会等名 第一回 景観考古学・人類学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Matsumoto, Y.
2. 発表標題 Identifying “Branch Shrine” in the Chavin interaction sphere
3. 学会等名 The Society for American Archaeology 87th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石村 智
2. 発表標題 オセアニアにおける海と王権の神話
3. 学会等名 海洋考古学会第12回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石村 智
2. 発表標題 「退化」か、それとも最小限の適応か?: チャタム諸島モリオリの適応戦略
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第8回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石村 智
2. 発表標題 三元ニッチ構築モデルから見たポリネシア人の拡散
3. 学会等名 第40回日本オセアニア学会研究大会・総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ishimura, T.
2. 発表標題 Ancient sea scape of Japan: Burial mounds as navigation points
3. 学会等名 Trekking shores, crossing water gaps, and beyond: Maritime aspects in the dynamics of "Out of Eurasia" civilizations (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石井匠
2. 発表標題 物と人の相互浸潤，新学術領域共創言語進化・出ユーラシア合同領域会議
3. 学会等名 物と命（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井匠
2. 発表標題 土器の「文様破調」の事例報告：今年度実施の3次元写真計測調査から
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第6回全体会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石村智
2. 発表標題 オセアニア初期居住民のセトルメントパターンと地形変化 歴史生態学的アプローチ
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第9回ランドスケープユニット耕論会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石村智
2. 発表標題 リモートオセアニアの初期住民・ラビタ人の食と健康：貝塚出土の動物遺存体・出土人骨の安定同位体およびストレスマーカーの分析から
3. 学会等名 出ユーラシアの統合的人類史学第4回食と栄養ユニット研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石村智
2. 発表標題 ラビタ文化複合の斉一性の評価
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第6回全体会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上野祥史
2. 発表標題 漢墓に副葬した「情報伝達」の所作
3. 学会等名 「中國出土資料学会」2021年第2回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上野祥史
2. 発表標題 『身体』でとらえた銅鐸の検討：考古学研究における視覚情報の相対化
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第6回全体会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上野祥史
2. 発表標題 銅鐸をめぐる行為の復元と視覚情報の相対化
3. 学会等名 『身体感覚』と銅鐸：考古学と心理学のコラボレーションA02班-B02班合同セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 桑原牧子
2. 発表標題 皮膚から紙へ刻み移す ピーチコマーと民族学者によるマルケサスのイレズミの記憶
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中園聡, 松本直子, 平川ひろみ, 太郎良真妃
2. 発表標題 文明創出メカニズムにおける土器の役割 日本列島の初期土器の認知考古学的検討
3. 学会等名 新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」第6回全体会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平川ひろみ
2. 発表標題 土器製作者の身体技法と認知 民族考古学の現場から
3. 学会等名 冬の考古学学校専門家招待特別講演(III)釜山大学考古学科Brain Korea21東アジアSAP融合人材育成チーム(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平川ひろみ
2. 発表標題 3Dデジタル技術等の多角的応用による土器製作者の動的身体技法復元のための基礎研究 概要
3. 学会等名 日本情報考古学会第45回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平川ひろみ, 中園聡
2. 発表標題 弥生土器における回転台問題とその論理
3. 学会等名 日本考古学協会第87回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本直子
2. 発表標題 人類史における顔身体表現
3. 学会等名 公開シンポジウム「顔身体の進化と文化」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto, Naoko
2. 発表標題 What 's so special about the Jomon?
3. 学会等名 DySoC / Exeter Webinar Series Evolution and Social Systems (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Palomino, C., Igor, Y., & Matsumoto, Y.
2. 発表標題 Rituales Religiosos en el Centro Ceremonial de Campanayuq Rumi.
3. 学会等名 VII Congreso Nacional de Arqueologia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井匠
2. 発表標題 弧帯石を紐とく
3. 学会等名 アジア文化談話会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石村智・北川瑞季
2. 発表標題 環境への適応と階層化のゆりもどし アオテアロア(ニュージーランド)を例に
3. 学会等名 考古学研究会第66回研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石村智
2. 発表標題 ポリネシアにおける社会階層化と人口・環境との関連
3. 学会等名 日本オセアニア学会第38回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中園聡・太郎良真妃・平川ひろみ・春成秀爾
2. 発表標題 愛媛県上黒岩岩陰出土石偶の再検討
3. 学会等名 日本考古学協会第86回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本雄一
2. 発表標題 ペルー中南部の形成期 チャビン、周縁、相互作用圏
3. 学会等名 アンデス文明研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本直子
2. 発表標題 フロンティアに挑む人類：出ユーラシアから見えてくること
3. 学会等名 名古屋大学未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 次世代モビリティを考える夕べ 第5夜「移動の価値とモビリティの未来（招待講演）」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石村智
2. 発表標題 土器・樹皮布・タトゥー：オセアニア・アートにおける文様とメディアの相互交流
3. 学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野祥史
2. 発表標題 古墳時代の器物を彩る装飾の社会的機能: 図象・紋様の選択
3. 学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学: 文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント: 出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑原牧子
2. 発表標題 東ポリネシアの神像と社会制度
3. 学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学: 文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント: 出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鶴見英成, 山本睦, 松本雄一, 渡部森哉
2. 発表標題 アンデス文明におけるドメスティケーション, モニュメント, 土器, 社会複合化
3. 学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学: 文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント: 出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中園聡, 平川ひろみ, 太郎良真妃
2. 発表標題 土器様式とカテゴリー: 土器様式の視覚的 / 定量的把握に向けて
3. 学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学: 文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント: 出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本直子, 蒲池みゆき, 川畑秀明
2. 発表標題 人形人工物における顔・身体表現の比較研究に向けて
3. 学会等名 新学術領域研究『出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明第2回全体会議「ドメスティケーション・土器・社会複合化・モニュメント：出ユーラシア地域の文明形成プロセスの比較」』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Cavero, Y. & Matsumoto, Y
2. 発表標題 Evidencias arqueológicas en la cima de la plataforma central del centro ceremonial de Campanayuc Rumi, Vilcashuaman - Ayacucho.
3. 学会等名 VI Congreso Nacional de Arqueología, Lima, Peru (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirakawa, H., Nakazono, S. & Tarora, M.
2. 発表標題 A morphological analysis of the simple pottery form of the middle Yayoi period in northern Kyushu, Japan
3. 学会等名 The 4th Conference on the Archaeological and Anthropological Application of Morphometrics (MORPH 2019 Sendai) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsumoto, N.
2. 発表標題 Exploring the Mechanisms of the Development of Civilization: An Overview of the New Integrative Project "Out of Eurasia"
3. 学会等名 4th Shanghai Archaeology Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsumoto, N.
2. 発表標題 Toward a comparative analysis of the facial and bodily representation of anthropomorphic artefacts
3. 学会等名 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsumoto, N.
2. 発表標題 Anthropomorphic artifacts as a nexus between people and things
3. 学会等名 Foro de Arqueologia Cognitiva: Monumentos, Arte, y Cuerpo Humano, afuera de Eurasia. Monumentos y tumbas como lugar de memoria social (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsumoto, N.
2. 発表標題 Typology and morphometrics: How we see and interact with things
3. 学会等名 The 4th Conference on the Archaeological and Anthropological Application of Morphometrics (MORPH 2019 Sendai) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平川ひろみ, 中園聡
2. 発表標題 道具としての手 平安時代須恵器壺におけるタタキ技法の一類型
3. 学会等名 日本情報考古学会第43回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 河合洋尚・松本雄一・山本 睦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 景観で考える：人類学と考古学からのアプローチ	

1. 著者名 工藤雄一郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 332
3. 書名 縄文時代草創期の年代学	

1. 著者名 Goto, A. and Matsumoto, N.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University	5. 総ページ数 242
3. 書名 Proceedings of the Out of Eurasia Hawai'i Conference, March 02-03, 2023. Trekking Shores, Crossing Water Gaps, and Beyond: Maritime Aspects in the Dynamics of "Out of Eurasia" Civilizations	

1. 著者名 工藤雄一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 232
3. 書名 復元イラストでみる！人類の進化と旧石器・縄文人のくらし	

1. 著者名 松本直子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 144
3. 書名 季刊考古学・別冊36 心とアートの人類史	

1. 著者名 河江肖剰、佐藤悦夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 グラフィック社	5. 総ページ数 160
3. 書名 世界のピラミッドWonder land	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明ホームページ http://out-of-eurasia.jp/ 出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 - http://out-of-eurasia.jp/ 出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 - http://out-of-eurasia.jp/index.html</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	桑原 牧子 (Kuwahara Makiko) (20454332)	金城学院大学・文学部・教授 (33905)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	工藤 雄一郎 (Kudo Yuichiro) (30456636)	学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授 (32699)	
研究分担者	佐藤 悦夫 (Sato Etsuo) (40235320)	富山国際大学・現代社会学部・教授 (33202)	
研究分担者	石村 智 (Ishimura Tomo) (60435906)	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・無形文化遺産部・室長 (82620)	
研究分担者	中園 聡 (Nakazono Satoru) (90243865)	鹿児島国際大学・国際文化学部・教授 (37701)	
研究分担者	上野 祥史 (Ueno Yoshifumi) (90332121)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	松本 雄一 (Matsumoto Yuichi) (90644550)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授 (64401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	石井 匠 (Ishii Takumi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	平川 ひろみ (Hirakawa Hiromi)		
研究協力者	太郎良 真妃 (Tarora Maki)		
研究協力者	ライアン ジョセフ (Ryan Joseph)		
研究協力者	ヤニック リリアナ (Janik Liliana)		
研究協力者	蒲池 みゆき (Kamachi Miyuki)		
研究協力者	猪 風来 (I Furai)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Out of Eurasia, International Academic Meetings in Mexico: Landscape, Monuments, Arts, and Rituals Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives	開催年 2020年～2020年
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------